

漆芸美術館だより



林暁《乾漆食籠「夏の花」》2008年第55回日本伝統工芸展（個人蔵）

90

漆芸解体新書—漆器のボディを大解剖—

国際漆展・石川2020 輪島展

漆の小箱29 「おうちでうるしミュージアム」開設!

石川県輪島漆芸美術館チャレンジショップ、所蔵品ピックアップ

おうちでうるしミュージアム「わんじま&アマビエぬりえ」ほか

2020年9月14日発行

漆芸解体新書―漆器のボデイを大解剖―

会期 9月19日(土)～11月16日(月) *会期中無休

漆器や漆芸作品は、素地(ボディ/胎)とよばれる原型に漆を塗り重ねて作られています。そのため、完成した漆器からはもとななる素材が分かりにくいかもしれません。しかし、漆器の土台となる素地は目的や形態によって使い分けられ、それぞれに合った加工方法が生み出されています。本展覧会では、挽物・指物・剣物・曲輪造を始め、乾漆・漆皮・紙胎・金胎・藍胎といった様々なボデイとその成形方法に着目し、漆器を言わば「解体」して、漆の下に隠れた素材と技をご紹介します。ここでは、様々な技法の中から漆皮と乾漆をご紹介します。



(図1) 増村紀一郎「漆皮金彩提盤」
1990年第37回日本伝統工芸展
(石川県輪島漆芸美術館蔵)



(図2) 増村紀一郎「漆皮金彩提盤」木型
(個人蔵)

漆皮は、動物の皮革を素地とする技法です。水に浸して柔らかくした牛や鹿の一枚皮を木型にかぶせ、皮の縁に通した紐を締め上げて木型によくなじませ十分に乾燥させた後、型から外して素地として用いるものです。皮に漆塗りを施すと非常に強靱なものになります。

「漆皮金彩提盤」(増村紀一郎作・図1)は、大振りでありながらも軽く、底から立ち上がりへと至る緩やかな傾斜や塗面の風合いなど、一枚皮の特徴が生かされた、漆皮ならではの作品です。本展では資料として、木型(図2)を展示いたします。木型の縁には、皮を固定する時に打った釘の跡が見られますので、ぜひ実際にご覧ください。

漆皮と同じように型を使ってボデイを成形する方法として、乾漆があります。粘土・石膏・木などで作った型に、漆で麻布を貼り重ねて素地とする技法です。奈良時代には仏像の製作などに多く用いられていました。

表紙の作品、「乾漆食籠『夏の花』」(林暁作)では、乾漆ならではの自

由で柔らかな造形によって、立葵や芙蓉などをイメージした夏の花が表現されています。金粉で表された繊細なシベ、表情豊かな花脈、花びらの縁の塗ぼかしなど、加飾にも目を奪われますが、ボデイの成形方法にも特筆すべき点があります。

引き型を用いて粘土を成形し、石膏で型を取った後、その型を用いて素地を作るという、基本的な乾漆技法に工夫が加えられており、独自の仕掛けによる可動部のある点が革新的です。コンパスで円を描くように引き型を回転させると、通常は甲面と側面が一定の形に成形されますが、本作の引き型は、敷板に作られたわずかな高低差の上をスライドさせることで、甲面を成形するプレートが上下に動くようになっています。これにより、花びらの緩やかな盛り上がりが生み出されているのですが、この機構は言葉のみではわかりにくいかもしれません。展示室では、作品と共に引き型、石膏型も展示しておりますので、引き型の仕組みもご覧いただけます。

この他にも、藍胎や巻胎など、様々な胎の成形方法、輪島での木地作りの方法などを紹介しております。ぜひ足をお運びください。

(河原法子)

国際漆展・石川2020 輪島展

会期 11月21日(土)～2021年1月17日(日) *前後期展示替え休館 12月17日(木)・18日(金) *年末休館 12月29日(火)～31日(木)

本展は、漆芸の公募展として1989年(平成元)に始まり、第12回目の開催となります。毎回、世界各国から応募があり、漆芸の新しい広がりを感じる国際的な展覧会として高い評価を得ています。本展の開催では、漆芸品を用いた現代的な生活スタイルや、新しい感性の提案などを広く国内外に求めることにより、漆器産業の活性化と漆芸を通じた国際交流の推進、さらには生活文化の向上が期待されています。

表現を主目的としたアート部門、計画的な生産や流通が可能な商品を提案するデザイン部門の2部門制になっており、大賞1点の他、アート部門、デザイン部門それぞれに金賞、銀賞、奨励賞が設定されています。また、審査員7名による審査員特別賞も設けられています。



【大賞】
「割木四段重箱」本間健司

今回の公募では、8の国と地域から215点の応募があり、一次審査(写真審査)を経て、7の国と地域から79点が入選しました(うち日本からは64点)。輪島展では75点を展示します。なお、輪島市在住の出品者は7名です。

それでは、大賞の作品からご紹介します。本間健司さん(茨城県在住)の「割木四段重箱」(デザイン部門)は、漆を採取した後のウルシノキを加工して作った作品です。木の外側を鉋で割った後、内側を削り抜いて底板をはめる方法で作られています。意図せず生まれる断面の表情が生かされています。テーブルなどに広げた時に、その有機的な形によって新しい景色が表現できる点も評価されました。

アート部門の金賞は、大谷佳那子さん(東京都在住)の「影の展翹」です。蝶などの昆虫の羽を、



【アート部門 金賞】
「影の展翹」大谷佳那子



【デザイン部門 金賞】
「七々子塗盛器『陽光』」
白川明美

標本にするために広げて固定することを展翹といいますが、本作は文字通り、蝶の影を固定して留めたものといえるでしょう。蝶の影が群がっているような複雑な凹凸の中に、塗立ての艶の美しさが見られます。

デザイン部門の金賞は、白川明美さん(青森県在住)の「七々子塗盛器『陽光』」です。「日々の生活が明るくなるように、天から降り注ぐ太陽のあたたかさや力強さを表現した」という本作は、径50センチの大作で、漆の固まる前に菜種の実を蒔いて小さな輪紋を作り、その上に色漆を塗り込んで研ぎ出す津軽塗の技法が用いられています。この他にも、海外からの出品作など多彩な力作が揃います。個性豊かな作品の数々をお楽しみいただけます。(河原法子)

「おうちでうるし」

ミュージアム」開設！

新型コロナウイルスの感染拡大により、展覧会の開催延期や中止、講座や普及イベントの縮小など、活動自粛をせざるを得ないこの状況下で、少しでも情報発信ができないか、各地の博物館や美術館ではそれぞれ工夫を凝らした活動が見受けられます。臨時休館を決めたことで開催が叶わなかった展覧会のネット配信。自宅でも楽しめる塗り絵や、家にあるもので工作できるワークシートの紹介。なかには期間限定で通信制の講座を実施する博物館もあり、実に多彩です。

当館でもおでかけを控えられている皆様に向けて、子どもから大人まで楽しめるさまざまなコンテンツを集めた『おうちでうるしミュージアム』のページを開設いたしました。日本中で話題になったアマビエと当館のマスケットキャラクターであるわんじまがコラボレーションした塗り絵。ウェブ会議の背景に使用できる画像や、スマートフォン向けの待ち受け画像。遊びながら輪島塗の工程を学ぶことができるすぐろく。これらは当館ホームページ内の『おうちでうるしミュージアム』から各種ダウンロードできますので、是非ご覧になってみてください。

そして私が皆さんにオススメしたいのが、見て

楽しめる・学べるコンテンツとしてYouTubeに随時アップロードしている「INSIDE INSIDE(インサイド・インサイド)」と「ZOOM IN QUIZ(ズームインクイズ)」の二種類の動画です。普段あまり目にするのではない作品の内側をわんじまと一緒にじっくりと覗くことができる「INSIDE INSIDE」は、人間国宝の作品からリアルな鯛の盛器まで現在までに四つの作品を取り上げています。作品の素材や技法など細部に焦点を当てた問題が出題される「ZOOM IN QUIZ」は、正解を予想しながら視聴していただくとより楽しめるかと思えます。

どちらの動画も当館学芸員が作品の撮影にあたり、照明の調整やナレーションなどを工夫した自信作です。展示ケース越しでは見ることの出来ない作品の細かい部分も見ることができると、動画を視聴してから美術館の展示をご覧になると、また新しい発見があるかもしれません。「INSIDE INSIDE」と「ZOOM IN QUIZ」については、今後も動画を投稿していく予定です。

新型コロナウイルスの猛威は、容易には衰える気配がありません。緊急事態宣言が解除された現在でも、県外への移動を控えている方は多いかと思えます。遠隔地にお住まいの方や外出自粛をさ

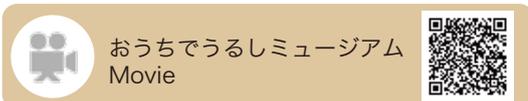
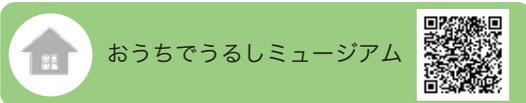
れている方にこれらのコンテンツをご覧いただき、事態が収束した後は当館へ足を運びゆっくりと作品を鑑賞していただければと思います。

当館も感染拡大防止のため様々な対策を講じておりますが、来館される皆様にもマスクの着用や手指のアルコール消毒など、ご協力をお願い申し上げます。一刻も早く、何の憂いもなく全国の博物館、美術館を訪問できる日が来ることを願っております。

(福江里美)



「INSIDE INSIDE」撮影の様子



当館ミュージアムショップに漆のアクセサリーやカトラリーを取り扱うおしゃれな販売ブースが一目見えました！いずれも作者は石川県立輪島漆芸技術研修所の卒業生。ご存じのとおり、その校舎



く、「チャレンジショップ」を開設しました。漆の魅力を生かした個性豊かな商品をお求めいただけます。また、「チャレンジショップ」

と美術館は目と鼻の先に位置します。ここから、日本の代表的工芸・漆芸の高度な技術を身につけた卒業生が毎年輩出しているのです。当館では、県内で制作を続ける同研修所の卒業生を応援するべ



では販売商品を引続き募集しています。自商品の販売にご興味のある卒業生の方は、ぜひお問合せください！

館藏品ピックアップ 「秋色」張間麻佐緒

1992(平成4)年
第24回日展

画面の中央にカラスウリ、その上下にニシキギの枝振りが浮かび上がっています。日展を中心に活躍した張間麻佐緒による作品です。作者は竹園自耕、安原祥窓に師事し、蒔絵師としての活動が顕著でしたが、本作からはそれと異なる漆の表情を見とることができる。

えるでしょう。カラスウリの蔓は流れるような運びで、風になびくさまを強調します。漆は粘りが強いためこうした自由な描写には熟達した技量が要求されます。また、金属粉を透明度の高い漆に混ぜてから塗る練金も併用し、場面に清涼な空気感を漂わせています。

背景には黒漆塗りに朱をぼかすように重ね変化を与えています。また、モチーフの描線を仔細に観察すると、かすれたような風合いが認められます。これは張間が得意とした、漆を絵の具のように使って筆で描く、漆絵の技法によるものです。一挙に塗面に描きつけるため、こうしたかすれは即興的なものとい

大胆な構成に加え、多彩な技法による画面効果が狙いすまされた本作。漆芸の絵画的表現を追究した張間ならではの魅力が堪能できる逸品です。(寺尾藍子)



これからの展覧会

漆芸解体新書—漆器のボディを大解剖—

2020年9月19日(土)～11月16日(月)

国際漆展・石川2020 輪島展

2020年11月21日(土)～2021年1月17日(日)

*12月17日(木)・18日(金)は展示作品入替えのため休館、29日(火)～31日(木)は年末休館

第38回日本伝統漆芸展

2021年1月30日(土)～2月22日(月)

第26回飛翔する輪島の漆芸作家たち

—全国展入選作品—

2021年3月9日(火)～5月10日(月)

これからのイベント

田崎昭一郎 輪島塗の世界 米寿記念展

併設 蒔絵工房 一門展・田崎オリジナルクラフト展

会期 10月7日(水)～12日(月)

会場 当館講義室 *入場無料

主催 (同) 田崎オリジナル

あなたも拭漆名人！5種の空目を楽しむ豆皿

日時 10月25日(日) 9:30～12:30

講師 西端良雄氏 参加費 6,500円 定員20名

10月9日までにお電話にてお申し込みください

65歳以上の輪島市民入場無料

期間 9月19日(土)～27日(日)

*予定は変更となる場合があります。

詳細は当館ホームページをご覧ください。

おうちでうるしミュージアム

わんじま&アマビエめりえ

漆の小箱でご紹介した「おうちでうるしミュージアム」では、当館公式キャラクターわんじまのめりえがダウンロードできます。市内小学校の児童が、それぞれのおうち時間中に取り組んでくれました！寄せられた作品のうち一部をご紹介します。色をたくさん使った思い思いのイラストをご覧ください。



ご協力
門前西小学校
のみなさん



ご来館のお客様へお願い

■増築等工事のため展示室4は閉鎖し、展示を縮小しています。また、入館料が下記の通り変更されています。ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解くださいますようお願いいたします。

工事期間中の入館料：一般 420円 高大学生 210円 小中学生 100円

■新型コロナウイルス感染症拡大防止の徹底のため、ご来館時にはマスクの着用、手指の消毒をお願いいたします。また、検温を実施し、37.5℃以上の発熱がある場合、入館はご遠慮いただきます。混雑時には入場制限を行う場合がございます。詳細な取り組みにつきましては、事前にホームページ上で「ご来館の皆様へ」をご確認ください。

漆芸美術館だより No.90

2020年9月14日発行

編集・発行／石川県輪島漆芸美術館

〒928-0063 石川県輪島市水守町四十苅11番地

TEL 0768-22-9788 FAX 0768-22-9789

<https://www.city.wajima.ishikawa.jp/art/>

